

尾道糸崎港国際物流ターミナル整備事業

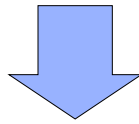
尾道糸崎港は水深が不足しているため、原木運搬船は沖合の投下泊地で一旦貨物を降ろし、そこから筏により曳航を行う等の非効率な輸送形態となっているため、大型船による効果的な輸送への対応が求められている。また、港内には木皮が流出し、海面清掃活動を強いられている。



尾道糸崎港国際物流ターミナル整備事業

課題

- 木材輸入拠点として背後には木材取扱企業が数多く存在し、大型船に対応した施設整備など木材港としての機能強化が強く望まれている。
- 大型岸壁がなく、水深不足のため、沖合いで原木を投下し、筏での港内二次輸送が生じ輸送コストが割高となっている。
- 二次輸送時に木皮の流出が生じ、周辺海域環境の改善が求められている。



尾道糸崎港機織地区 国際物流ターミナルの整備

【効果】

物流コスト削減により利用企業の競争力が向上し、地域経済に貢献するとともに、周辺海域の環境も改善が期待される。